

マンション問題総合研究所

理事長 喜田 大三



謹賀新年

より良い年になりますよう
心からお祈り申し上げます

◎二大震災 がんばろう

去年(2011)7月、本誌98号に、短文を書きました。阪神では、1995年1月17日マグニチュード7弱の都市直下型地震が発生。マンシヨンの液状化防止や全壊した商店街の復興を紹介しました。

東北では、去年3月11日マグニチュード9の巨大な地震その津波により甚大な被害を受けました。

巨大地震・津波は想定外、いいえ予測していたともいわれる。真相を知ることが防災・減災の復興に必要です。以下、詳細説明いたします。

◎巨大地震・津波は想定外

ご存知のように、東北地方の北米プレートの下へ太平洋プレートがもぐりこみ、そのひずみで北米プレートが跳ね上がり、地震そして津波が発生しました。

宮城県から茨城県太平洋沖に予想された4つの大地震の震源域が連結して動き、マグニチュード9の巨大地震になりました。地震をおこしたプレートの範囲は、南北500km、東西200kmです。

報道によると、国の地震調査委員会の阿部勝征委員長(東大名誉教授)は、翌12日未明、記者会見を開き、『4つの震源域が連動するとは想定できなかった。地震研究の限界だ』と述べました。

また、予測できなかった理由は、『過去の地震にはつきりした事例がみられなかった』と話しました。

◎巨大地震・津波を予測

震災半年後に、学士會会報890号がとどく。会報は元帝大の現国立大七校の卒業生の情報誌。緊急特集

『東日本大震災』

地震学者の岡村行信博士(産業技術総合研究所 活断層・地震研究センター長)によると、東北地方太平洋沖地震は想定外であるといわれたので、従来の地震および津波規模の予測について不信感が社会に広がった。

しかし、巨大地震・津波が発生する可能性は指摘され、想定できない地震・津波ではなかった。

残念なことに、巨大地震・津波の危険性を評価し、社会に公表する前に、今回の地震が発生してしまつた。

今回の地震に匹敵する地震が、古文書に記載。それが、西暦869年(貞観11年)の貞観地震です。その情報を補足したのが、次項で説明する津波堆積物です。

去年の東北太平洋地震の津波浸水域と貞観地震の津波堆積物の分布域とがほぼ同じであった。

自然は地層の中に巨大な津波の警告を残しており、それに気づいていたが、地震は待ってくれなかった。

◎貞観地震の津波堆積物

地震学者の箕浦幸治博士(東北大学院教授)達は、古文書に記載された西暦869年の貞観地震の津波堆積物を調査研究し専門誌に発表しています。

仙台平野の東北、多賀城の城下町に、貞観地震の津波が、海岸から少なくとも4kmの内陸部へ海砂を運搬。その後、堆積砂層は十和田火山灰と植物分解物層に覆われました。

類似的砂層は仙台から福島の間にかけて広く確認されました。

貞観堆積砂層の下位には、年代測定から2千年と3千年程前の2つの砂層。過去3千年間に3度津波が押し寄せた。先史時代の2つの津波堆積物の層厚と分布は貞観津波と同等であり、いずれの津波も最大規模であったと推察。

そして、仙台湾沖で巨大津波が千年〜8百年に一度発生している結論しました。

予想どおり、貞観から千百年後の去年3月に巨大地震・津波が現実になりました。

◎津波避難とマンシヨンの

上記から、巨大地震・津波の予測を社会に公表して避難体制づくりが必要です。

去年9月、兵庫県の西宮市長名で、当方の5階建て賃貸マンシヨンを【津波等災害時の一時避難ビル】に指定の依頼書が送られてきました。

当マンシヨンは、本誌98号で17年前の阪神大震災に耐えたと紹介。建物は震災5年前に建設、予め砂地盤に液状化防止処理をしました。

東北では巨大地震・津波で、多くの尊い命が失われました。西宮市も東南海・南海地震の津波規模を見直し、想定津波高は、これまで地震M8余で3mでしたが、今後は、地震M9クラスの可能性も踏まえて、暫定的に2倍程度の5m余にしています。

西宮市へ津波襲来時には、東西のJR線南側、海岸まで数kmの平地の住民が避難できる高所を提供します。

去年3月、東北ではマンシヨンの指定はないが、一部の住民は津波を知って逃げこんで助かっています。